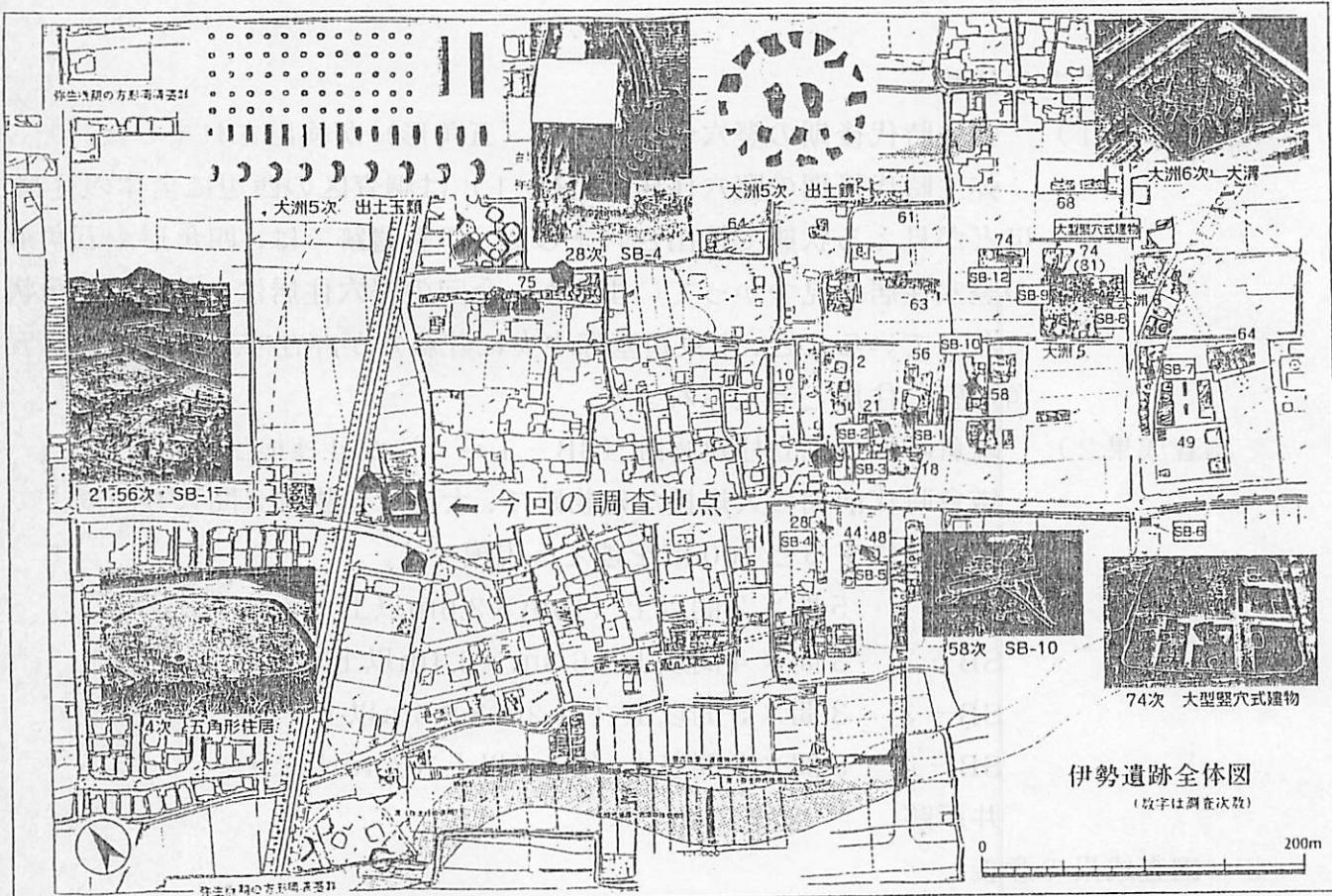


# 伊勢遺跡現地説明会資料

(99次)



2006 · 01 · 21

# 守山市教育委員会

## 1 はじめに

伊勢遺跡は、昭和54年に発見された弥生時代後期の大規模な集落遺跡です。平成4年9月、遺跡中心部から当時国内最大の掘立柱建物が発見され、その後平成17年までの調査で合計12棟の弥生時代の大型建物が見つかり、邪馬台国時代の有力なクニの中心部と考えられています。また平成14年には、王の住居かと考えられる国内最大級の大型竪穴建物が見つかりました。今回の調査地点は、遺跡の西端近くにあたる場所にあり、弥生時代後期の集落が広がっている様子が判明しました。

## 2 発見された生活跡

調査成果1) 弥生時代後期の竪穴住居跡1棟(五角形)が検出されました。

弥生時代後期の竪穴住居(SH-1)は調査区の西辺に全体の6割ほどが見える状態で検出されました。伊勢遺跡では、四角形や五角形の竪穴住居が見つかっていますが、今回の竪穴住居は、3辺が鈍角状になっていること、南東辺壁際中央に貯蔵穴が存在する事などから五角形竪穴住居と考えられます。

調査成果2) 鎌倉時代の掘立柱建物跡(SB-1~4)が4棟検出されました。

鎌倉時代前期の大規模な建物跡で、大きな建物は5間×5間以上で床面積にすると100m<sup>2</sup>を越える規模です。

SB-1 5間×2間以上 (10m×3.6m以上)

SB-2 3間×4間以上 (6.3m×6.4m以上)

SB-3 3間×5間以上 (11.2m×8.5m以上)

SB-4 5間×5間以上 (6.4m以上×7.4m以上)

井戸跡 一辺約3m

## 3 調査成果の意義

伊勢遺跡の範囲としてJR線沿いを想定していますが、今回の調査地でも、弥生時代後期の五角形住居が検出されました。直ぐ近くでも五角形竪穴住居が見つかっていて、一帯に住居群が形成されていることが明らかになりました。遺跡の西半部に、五角形住居が多い点は伊勢遺跡の特徴といえます。

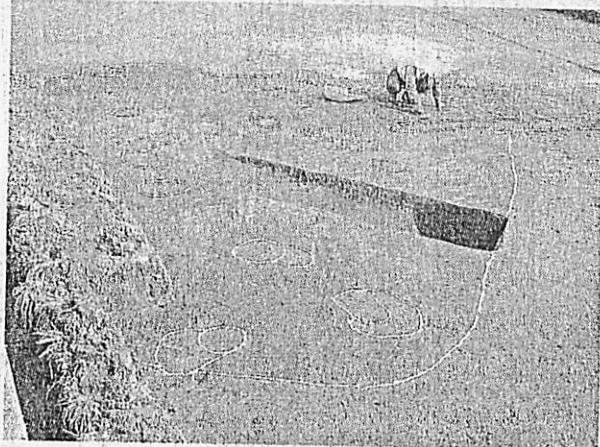
鎌倉時代の建物跡が4棟以上も発見され、何度も建替えされていることがわかりました。今回の調査地点から北側の調査地にかけて大きな屋敷跡があり、主屋、納屋、井戸跡などがあったことがわかりました。

邪馬台国成立前夜からクニの中心部が柵や溝、大溝などによって区画され、広大な集落を形成していた伊勢遺跡ですが、西側の住居群の一部が今回の調査で明らかになったと言えます。また、鎌倉時代(13世紀)には有力農民の大きな屋敷が形成されたことも明らかになりました。

弥生後期

# 五角形の堅穴住居跡

## 守山の伊勢遺跡、8棟目見つかる



遺跡の西側で確認された五角形の竪穴住居跡  
(守山市伊勢町)

守山市伊勢町の伊勢遺跡を発掘調査していた同市教委は十八日、弥生時代後期（二世紀）の五角形の竪穴住居跡一棟が見つかった、と発表した。

同遺跡では八棟目で、国内の半数近くが同遺跡に集中しており、市教委は「国内で見つかった五角形の竪穴住居跡の半数が集まる日本海沿岸地域」と

の交流の中で、この地域に建築技術がもたらされたと考えられる」としている。

る。鳥取や島根県では、五、六年前にまとまって確認され、計五十棟ほどになるといい、市教委の伴野幸一主任は「日本海側との地域間交流があつたこ

# 鳥取、島根で 多數出土 日本海側と交流か

広さ約三十六平方㍍。食料などを貯蔵したと考えられるが、南東辺で確認された。

伊勢遺跡は、弥生時代後期の集落跡で、東側に政治を行つ祭殿跡など、西側一帯に集落跡が広がっている。

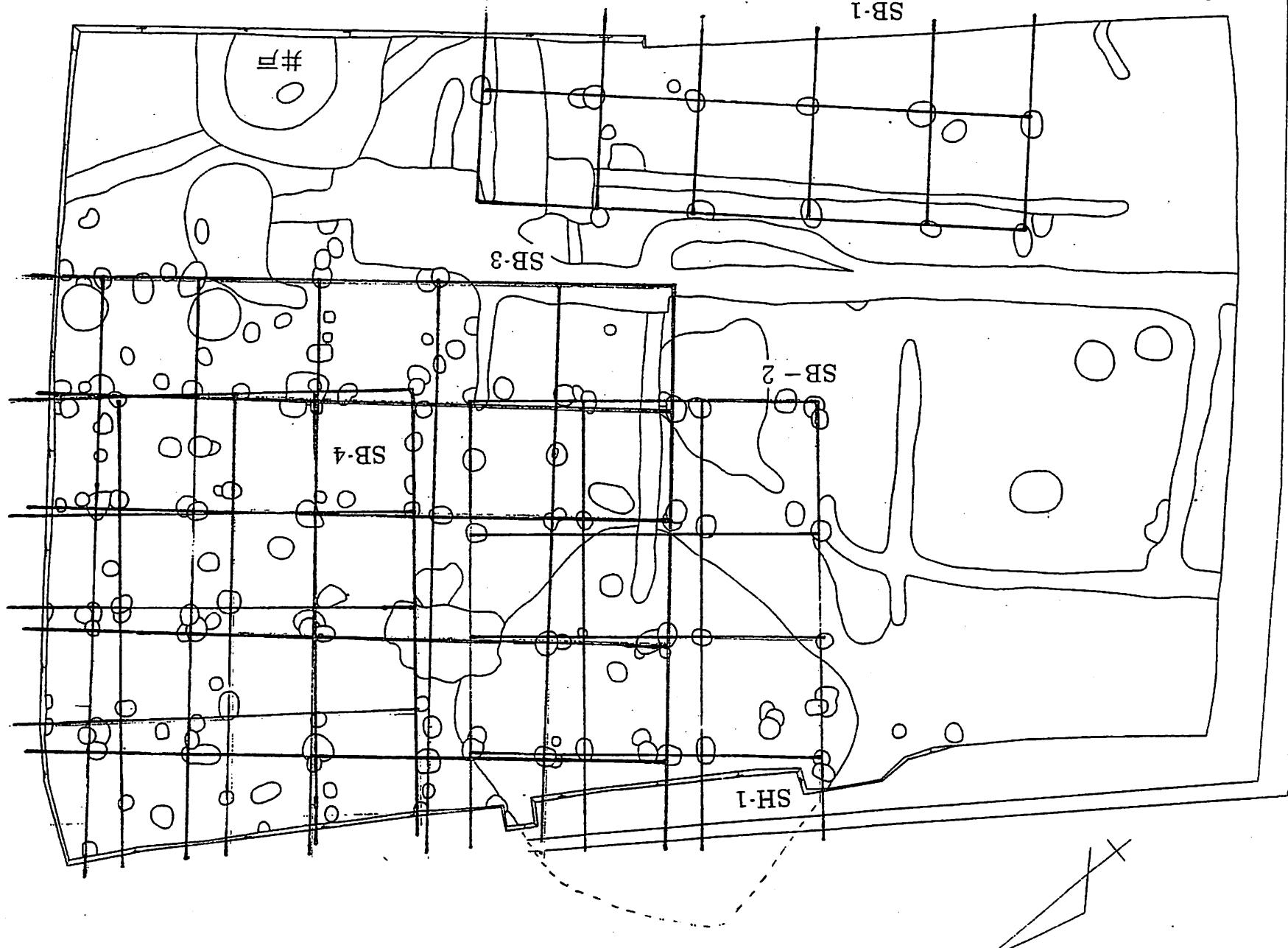
伊勢遺跡は、弥生時代後期の集落跡で、東側に政治を行つ祭殿跡など、西側一帯に集落跡が広がっている。

二十一日午前十時から現地説明会が行われる。問い合わせは市文化財保護課☎077(582)

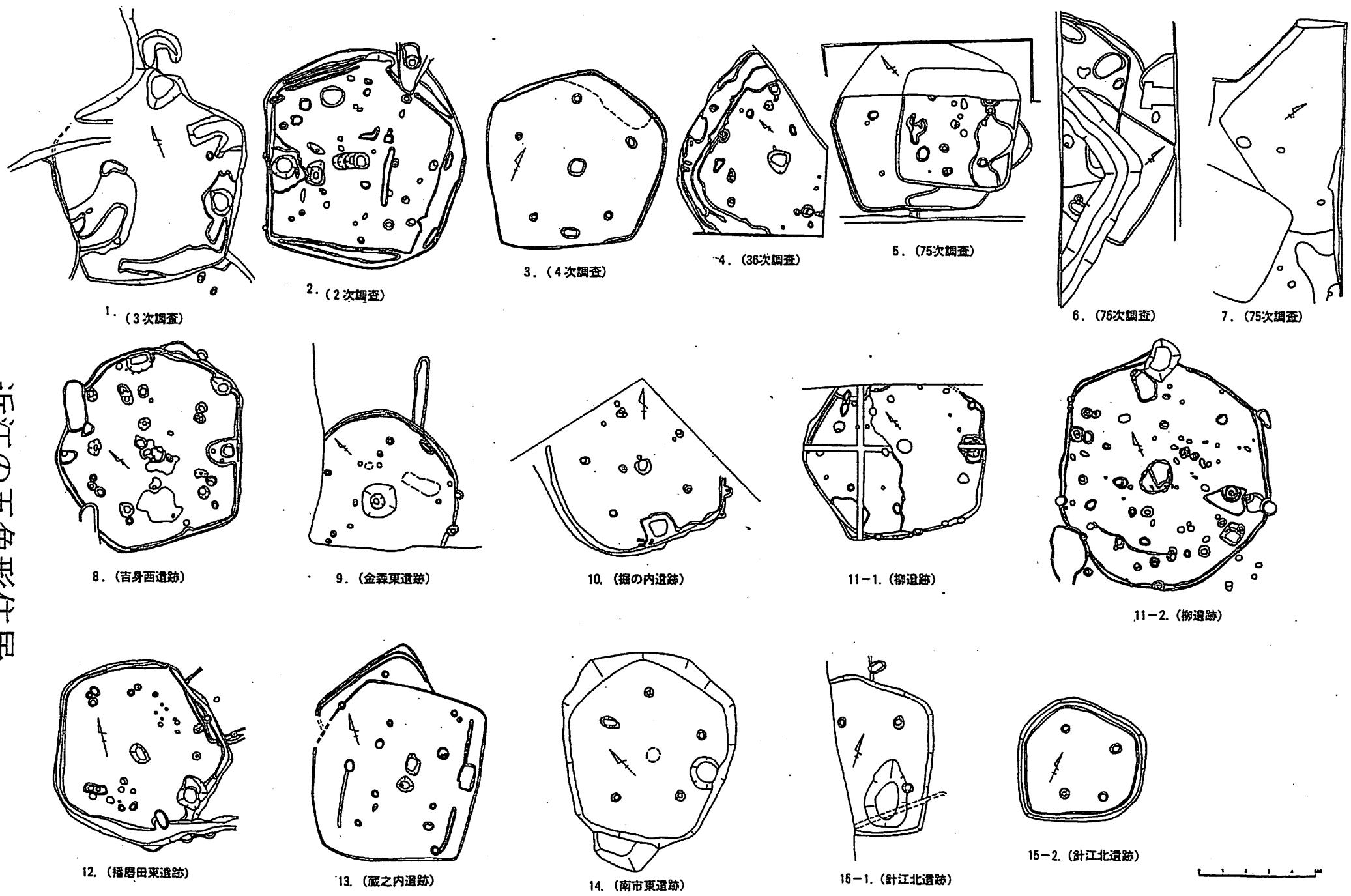
田螺溝斷面全圖

10m

0



# 近江の五角形住居



1 2 3 4 5